

会 議 要 旨

会議の名称	川越市立川越高等学校教育審議会第4回会議
開催日時	平成27年11月16日(月) 午後2時00分 開会 ・ 午後5時00分 閉会
開催場所	川越市立川越高等学校中会議室
議長(委員長・会長)氏名	会長 遠藤 克弥
出席者(委員)氏名(人数)	副会長 西澤 寛 石井 成人、伊藤 幾造、新保 正俊、土田 賢省、永瀬 慎二、 永松 靖典、笛木 正司(8人)
欠席者(委員)氏名(人数)	大竹 秀明、齋藤 清隆、澤田 隆 (3人)
事務局職員職氏名	学校教育部 部長 小林 英二、参事 山本 康義 学校管理課 参事兼課長 中野 浩義、副参事 内山 久仁夫、 指導主事 杉田 和彦、指導主事 栗田 大悟 市立川越高等学校 校長 関 俊秀、参事兼事務長 大嶋 美紀夫
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会のことば 2 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第3回会議の概要報告 (2) 川越市立川越高等学校教育審議会に係る県外視察の概要報告 (3) 第6校時授業見学 (4) 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 答申(案)について 川越市立川越高等学校の長期的ビジョン(案)について その他 3 連絡・報告 4 閉会のことば
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 川越市立川越高等学校教育審議会第4回会議 次第 ・ 川越市立川越高等学校教育審議会 委員名簿 ・ 第3回会議要旨 ・ 川越市立川越高等学校教育審議会に係る県外視察 概要 ・ 川越市立川越高等学校教育審議会第4回会議 資料

議 事 の 経 過

1 開会

2 議事

(1) 第 3 回会議の概要報告

事務局より、第 3 回会議要旨について説明し、案のとおりホームページにて公開することについて了承された。

(2) 川越市立川越高等学校教育審議会に係る県外視察の概要報告

事務局より、川越市立川越高等学校教育審議会に係る県外視察概要をもとに説明があった。

(委員)

探究学習に力を入れていることについて、詳しく教えてほしい。

(事務局)

探究学習をねらいとして、普通科に「科学総合コース」を設置している。教育課程は同一であるが、このコースは進度が早く、余った時間で発展的内容や実験観察などを入れている。基礎学力が高く、高い志を持つ生徒を募集するため、このコースは全員を推薦入試により募集している。

(委員)

川越市と異なる立地上の特色はあるか。

(事務局)

学区制が敷かれており、現在は北部の生徒が多く通っている。今後、南部の都市部を含めて学区が再編されると、状況が変わってくる可能性がある。

(委員)

視察先の高校の入試の倍率はどのくらいか。

(事務局)

今回視察した高校は、いずれの学科においてもかなり倍率が出ている。

(委員)

視察先の高校の進学状況はどうか。

(事務局)

兵庫県の県立高校は、商業系学科も含めて、センター試験に対応した教育課程となっている。大阪市の商業高校は、5つの大学と連携し、推薦入試を中心に進学をしている。

(3) 第 6 時限授業見学

(4) 協議事項

答申(案)について

川越市立川越高等学校の長期的ビジョン(案)について

事務局より、川越市立川越高等学校教育審議会第4回会議資料をもとに説明。上記の、に関連して次のような意見等が示された。

【意見等の概要】

グローバル化の中で、進取の気性、自己を表現するというか、自主的に問題に取り組んでいく、そういう生徒を育てることが必要であると思う。

アクティブ・ラーニングを強調するのであれば、「時代の要請」の中で、「探究学習を取り入れて自主的に問題を解決していく生徒を育てていく」とした方が、課題解決学習という意味に相当すると思う。

「生きる力と学びを育む川越市の教育」という目的に合致する意味でも、生きる力を育むために、「アクティブ・ラーニング」や「協調学習」を積極的に取り入れた教育課程、教育活動を行っていくのであれば、よく理解できる。

川越市もグローバル化の中で変化していかなければならない。残すべき伝統は残し、新しいものはどんどん受け入れていく、「世界の中の川越」、こうした立場になっていかなければならない。

川越にも発信が求められる。発信であれば、一つは英語力。せっかくパソコンを勉強しているのであれば、パソコンに英語力が加われば、川越を発信できる。これから変わっていく社会の中で、生徒がよい意味で生き残っていくためには、どういう高校の在り方がよいのか、具体的な議論が必要。

「市民の要望」に「国際人」があり、「時代の要請」に「グローバル化への対応」がある。高校生に要求される国際人という視点が重要。言葉は通じなくてもスポーツは万国共通。市立高校は得意なスポーツを活かすことができるのではないか。

長期と中期と短期を分けて考えることが必要。「課題解決学習」は、来年にでも取り組むべきもの。オリンピックは5年先。長期的ビジョンとは別に、今やらなければならないものについて、議論することも必要。

全部まとまって入ってしまったので整理することが必要。「商業経営後継者の育成」の中に、英語力と伝統文化があるが、英語力は向上、伝統文化は継承。課題解決学習では、「自分たちが考えるまちづくり」をやるとよい。

11年後に生徒は30歳前後になる。働く姿をイメージすると、どんなカリキュラムが必要かということが明確になる。これからは国際都市になる。英語で発信することを学ぶことが必要。観光は市を支える一側面ではない。

国際人の育成、グローバル化への対応ということであれば、「川越市の求める人材」は「世界が求める人材」といったように広くしてもよいのではないか。

「川越市を支える人材」よりは埼玉県を支える人材。中核市川越として埼玉県を支えていく。そういうキャッチフレーズでもよい。

即戦力として社会へ出ていく生徒、大学へ進学して、さらなる勉強をして社会に出ていく生徒など、諸々あるのが現状。社会へも大学へも、よいパスが出せるよう、よい教育を行うことが重要。

市が経営している学校に預けられた生徒が、社会人として市立高校で学んだことを活かして、川越市にお返ししていく。こうした人材をこれからも送り出していくために、川越に拘ったところも、今まで以上にあってよい。

創立100周年に向けてという中で、社会の変化もあるが、市立高校はなぜつくられたのか。原点は何であったのか。部活動や勉強など、学校の持つ、目には見えない文化が大切。「自立」というのであれば、生徒の意見も聞くことが重要。

市民の要望の中に進路保証がある。進路保証は大学進学だけではない。市役所に就職するなら市立川越というのはどうか。目的に応じ、ニーズに応えられるようにしてほしい。市立川越は、大学進学や就職など、つぶしがきくのも特色。

文部科学省は、今の高校だけでは世界と勝負できる能力が身につかないのではないか。だからすぐ上まで行けるような連続性というものを考え、高大連携を念頭に今後を見ている。そのくらいの能力がないと、社会の中で競争していけない。

高校そのものが、生きる力としての学力をどう身につけさせるかを考えることが必要。どんどん海外から学生が入っており、勉強量や英語、中国語などの語学でも負けてしまう。中学・高校で学習する習慣をつけることが必要。

学力をどうつけていくか。アクティブ・ラーニングは、基礎基本が定着した上での話。思考力・判断力・表現力の育成を、長期的ビジョンにしっかり位置付けることが必要。

進路保証は今でもかなりできている。これを長期的ビジョンに入れると、今できていないのかという問題になる。長期的ビジョンと今やるべきことを分けていくことが必要。

平成32年から大学入試制度が変わり、今の中学1年生からセンター試験が廃止になる。今の中学1年生が高校を選ぶ段階で、市立川越高校はすでに対応しているということを示すことが必要。中期的ビジョンとして取り組むことが重要。

大学入試制度が変わり、学力調査を行ったとき、「こんなに（学力が）低いのであれば、市の税金を投入しすぎではないか」という意見が出たらどうするのか。伝統も何もなくなってしまう。

大学入試制度については未確定であるが、大きな流れとしては事実である。この点への対応は、中期的ビジョンとして取り組んでいかなければならない。

大学は最近、グローバル化については出てきているが、人間力、生きる力、世界の中で生き残れる力についてはまだない。世界の中で生き残れる力や人間力などを、高校のときから育成していくとよい。

グローバル・リーダーは、頭がよくて仕事を引っ張っていくことだけではない。日本人はおもてなし、技術力、安全性などについて、世界の中で優れている。市立川越高校のよさは伝統文化。リーダーとしての資質は何か、考えることが必要。

外国人がどんどん日本に来て、日本語を身につけ、日本を変えていく。文書を書かせたら日本人の方が下手だった、ということも起こっている。基礎学力は重要。

「小江戸から世界へ」とあるが、世界から小江戸へ来る方向も入れてはどうか。外からも迎えるということである。

グローバル・リーダーという言葉が独り歩きしてしまっている。グローバル・リーダーという意味をもう少し詰めて考えていかないと、表現しきれない印象。リーダーということばの概念がポイントである。

「世界が求める人材を川越から」というのはどうか。

「川越市が求める人材を川越で育成」ということでなく、広くグローバル化を言っているのであれば、「世界が求めるもの」または「国際社会が求めるもの」である。「リーダー」は難しい。そういう人材を育てることの方が理解しやすい。

3 連絡・報告

(事務局)

本日審議いただいた長期的ビジョンは、いただいた意見をもとに案を作成するので、第5回会議で改めて審議いただく。また、このビジョン実現に向けての条件整備についても、次回提案する。

第5回は2月5日(金)の午後3時から市立川越高校で開催する。

4 閉会

(事務局)

以上をもって、川越市立川越高等学校教育審議会第4回会議を閉会する。